

令和3年度
三鷹市立小・中一貫教育校

全7学園の評価・検証報告



令和4年5月
三鷹市教育委員会

令和3年度 三鷹市立小・中一貫教育校各学園の評価・検証について

平成21年度に、三鷹市内のすべての公立学校が小・中一貫教育校となり、各学園に設置されているコミュニティ・スクール委員会が、それぞれ、学園運営、教育活動等の成果や、課題と改善策、各課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等について評価・検証を行い、結果を教育委員会に報告しています。

各学園は、それぞれの評価・検証を基に、市教育委員会は、各学園からの評価・検証を基にそれぞれの立場で、三鷹市の推進するコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の一層の充実・発展に努めてまいります。

各学園の評価・検証の項目、取組例は以下のとおりです。

人間力・社会力の育成

(1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進

○コミュニティ・スクールの運営について

例・コミュニティ・スクールの運営に係る内容

- ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）

○小・中一貫教育校としての教育活動について

例・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等）

- ・小学校間での授業交流
- ・乗り入れ授業
- ・児童・生徒の交流活動

(2) 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実

○（知） 確かな学力について

例・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上

- ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進
- ・主体的・対話的で深い学びの推進
- ・ICT活用
- ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等

○（徳） 豊かな人間性について

例・考え議論する道徳

- ・いじめの早期発見・早期解決
- ・情報モラル教育
- ・生活指導等

○（体） 健康・体力について

例・基本的生活習慣の確立

- ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等

(3) 特色ある教育活動について

例・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育

- ・オリンピック・パラリンピックレガシー教育等

喫緊の課題

○学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革について

例・退校目標時間、ノー残業デー等の設定

- ・教員のタイムマネジメント力の向上
- ・人財の効果的活用
- ・地域行事等への参加の工夫等
- ・部活動の適正化

連雀学園



令和3年度 連雀学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティの創造に係る内容 ・コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等） 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティの第1歩となる「学校3部制」の施設利用について進める。 ・CS委員会での話し合いの時間を確保する。 ・三鷹市教育フォーラムでの発表 ・子ども熟議による企画 ・協働しての交流活動 ・学園の教職員の当事者意識とCS委員会や地域、家庭との協働 ・発信力のある広報活動 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校3部制」に向けて、第六小学校で普通教室を解放し、放課後の居場所づくりを開始できた。 ○CS委員会で話し合いの時間を確実にとり委員会のもち方を改善することができた。 ○三鷹教育フォーラムで、子ども熟議を発表し、全国から高い評価を得ることができた。 ○コロナ禍で、CS委員の学校訪問の機会は減っており、教員の委員会との距離も縮められていないことを受け、CS委員の4校への学校訪問日を計画した。 ○学園の行事が縮小、中止される中でも、連雀NEWSを6回配布することができた。連雀カレンダーも昨年度のを改善し発行できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手立てや方法を共有し、来年度連雀学園全体で推進できるようにしていく。 ○話し合いの回数の確保とともに、実践に移していくあり方を追究していくことが望まれる。話し合いの結果の活用や生かし方について踏み込んだ熟議の在り方を工夫していく。 ○子ども熟議の今後の発展のありかたや、各校に熟議に向けての話し合いのスキルを広めていくことが課題となる。 ○3学期の学校訪問はコロナ感染拡大で中止になったが計画をしたことを次年度の実施につなげていく。 ○学園アンケートの結果からのCS委員会についての認知が低いことを受け、アンケートの内容を工夫するなどし、周知していく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の改善 ・学園研究の充実 ・児童会・生徒会組織によるリーダーシップの育成 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○乗入れ授業は各校ともに、80パーセント以上実施できた。 ○学園の交流活動は、4・5年生の交流学习、6年生の一中体験において時期や方法を工夫し実施できた。 ○「連雀子ども熟議」を受けて、児童会、生徒会が中心となり、一人一つの人権宣言を考える活動を連雀学園全体で実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校の授業の在り方を積極的に学ぶ意識を広げていくことが求められる。 ○連雀音楽会がコロナ禍で2年続けて実施できていない。今年度、中学生の歌声を録画で配信する。やり方を工夫、改善していくことが必要となる。 ○連雀縦割り活動が2年間実施できていない。時期や内容を工夫し実施に向けて考えていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された学びと協働的な学び ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・G I G Aスクール構想 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究の充実 ・基幹学力の定着・向上 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進 ・1人1台配布されたタブレット端末PCを十分に活用しながら「個別最適化」した指導を進める。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○学園研究は、コロナの感染状況に応じてオンラインや集合形式をとり各校の実態に合わせて内容を深めた。 ○教科担任制の実施、算数ベーシックドリルの活用、みたか地域みらい塾の補充学習の実施により基礎学力を定着、向上することができた。 ○タブレット端末を使った授業は、すべての教員ができるようになった。G I G Aスクールマイスターによる実践例や研究の成果も校内で共有し「個別最適化」した指導に向けての意識を高めることができた。 ○キャリア・パスポートの連雀版を作成し、今年度当初から一斉に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度のテーマでの研究が3年目となる。実践報告を学園全体で共有し、まとめをもとに次年度の研究へつなげていく。 ○みたか地域未来塾や補充学習においては、地域の人材をさらに発掘し活用していきたい。 ○タブレット端末の効果的な使い方については、教員間で差が見られる。効果的な学習や個別最適化された学習の推進に向けて研修していくことが課題である。 ○「わが家の『学び』のスタンダード」等、目標を立てるものが、複数あるので精査していくことで求められる。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・情報モラル教育 ・生活指導等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力につながるあいさつ運動 ・温かい人間関係の醸成、道徳教育の充実、自己肯定感・自己有用感の向上 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の実態に併せてあいさつ運動を工夫し、2学期にはあいさつポスターの交流も実施できた。 ○学園のアンケート結果からコロナ禍での不安をかかえている児童・生徒の約半数弱が、大人に話せていないことがわかった。 ○11月の人権週間に向けて、全校児童一人一人が「いじめや偏見・差別」の根絶に向けて宣言を行い、人権意識を高めた。 ○中学校の生徒会が中心となり、連雀学園の生活指導のきまりを見直し作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で地域の方々の参加ができていない。実践力につなげるために地域でのあいさつなども指導につなげていく。 ○保護者の9割は、話せているととらえており子どもと大人の認識の違いが浮き彫りになった。不安感をとりのぞけるよう話せる環境の確保が課題となる。 ○宣言しただけで終わらせず、定期的に振り返り行わせることにより、より人権感覚を磨いていく。 ○連雀学園全体の児童・生徒に広め、守らせていく具体策を考えていく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立 ・ 体力向上、健康にかかわる内容（食育）等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園研究の充実 ・ 体力向上、健康教育への取り組み、オリンピック・パラリンピック教育の推進 ・ 安全に関する正しい知識と高い意識 ・ 「わが家の『学び』のスタンダード」の推進。 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 学園研究は、4校ともに創意工夫し自尊感情・自己肯定感の向上に向けて充実させることができた。</p> <p>○ コロナ禍において体力テストの結果からの児童・生徒の体力の低下が明らかになったが、授業の工夫や体育的活動を充実させ体力向上に努めた。</p> <p>○ 東京オリンピック・パラリンピックの開催をもとに、ゲストティーチャーを招きオリンピック・パラリンピック教育の集大成とすることができた。</p> <p>○ 「わが家の『学び』スタンダード」を、定期的実施し家庭と連携して生活リズムについての振り返りを行った。</p>	<p>○ 今年までの3年間、学園研究は「心身ともに健やかな児童・生徒の育成を目指して」を主題として取り組んできた。成果や課題をまとめ、「知的コミュニケーション」をキーワードとして、各校で研究教科を決めていく。</p> <p>○ コロナと共存した体力向上の手立てを創意工夫していく。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピック教育で学んだことをレガシーとして今後の実践に結び付けていく。</p> <p>○ 「わが家の『学び』スタンダード」の集計結果を生かし、保護者にさらに働きかけていくことが必要となる。CS委員会でも今後の実施方法について意見交流をしている。適切な実施の在り方について検討を重ねていく。</p>

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・ オリンピック・パラリンピック教育等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム・マネジメントの観点より、各校で作成した地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育指導計画を実践する。 ・ オリンピック・パラリンピックを実際に観戦することにより、その意義や選手の生き方などから大きな学びがあるよう教育活動を積極的に展開する。 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 地域学習を取り入れたキャリア・アントレプレナーシップ教育の指導計画を各校の実態に併せて実施することができた。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックの全学年観戦はかなわなかったが、各自での観戦を通しての体験を今までのオリ・パラ教育と結び付け学びを深めた。</p>	<p>○ 地域学習では、地域の人財の活用が欠かせないので、学校の実践を広め、スクール・コミュニティ構想の具現化に向けても人財の発掘とともに外部の指導者の活用を進めていく。</p> <p>○ 今年度までのオリンピック・パラリンピック教育で学んできたことをもとに今後の実践に結び付け、「多様性と共生」の感覚を身に付けさせていく。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用 ・地域行事等への参加の工夫等 ・部活動の適正化 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「三鷹市立学校における働き方改革プラン」を踏まえ、CS推進員、校内の専門スタッフや校務支援システムの活用をすることで、組織的な課題解決力の充実を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○1か月の勤務時間 45 時間以内を目標にしたが、前期よりも後期の方が割合としては減ってきた。 ○中学校では、部活指導員、外部指導員の運用により顧問の部活の指導時間の軽減ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○超過勤務の教員は偏っているので、校務分掌や能力に合わせた職務の適正化を図っていく。 ○部活動の質の向上に結び付く部活指導員の確保が望まれる。

令和3年度 連雀学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> ○CS委員会で、フリーターキングや話し合いの時間を確保したことで、CS委員会のもち方が改善しCS委員の意識の向上が見られた。 ○スクール・コミュニティ構想の学校3部制の実現に向けて、第六小学校において、放課後に教室開放を行い利用児童、保護者の満足感を得ることができた。 ○11月の三鷹フォーラム2021の全国発表において、連雀学園の子ども熟議をDVDで発表し、好評を博した。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ○CS委員会で話し合った内容を深め、実践に移していく。自主的な活動を進めるためにもスクール・コミュニティ構想を推進していく。 ○学校3部制の二部に当たる放課後の教室開放を小学校三校で実施し子どもたちの放課後の安全・安心な居場所づくりを推進する。 ○デジタル化、ICT化の推進に伴い、子ども熟議、CS委員での熟議を重ね、連雀学園としてのルールや活用方法を明らかにし「個別最適化」された学びを深めていく。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ○三鷹のこれからの教育を考える研究会「最終報告」をCS委員会の中で理解を深め実現に向けて当事者意識を高めていく。 ○第六小学校の実践を踏まえて、各校の実態に併せた居場所づくりが進められるよう環境面、施設面を整えていく。 ○連雀学園の生活指導部を中心に作成した「連雀学園タブレット端末ルール」を周知し、話し合いや熟議を深め、より良い活用について考える機会を作っていく。

にしみたか学園



にしみたか学園

令和3年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が参画するスクール・コミュニティ ・教員とともに実践するコミュニティ・スクール ・キャリア教育の講師、漢字検定等のボランティア派遣 	
取組	1 C S 委員会の周知 2 承認事項内容の事前配布 3 学園ホームページの更新 4 S C 推進委員の活用（未来塾等学校支援等の派遣） キャリア教育の推進（講師・体験場所の支援） 5 C S と教員の合同熟議の実施（8月）	6 学園カレンダー 7 にしみたかアクションプランの策定 8 地域による英検・漢検の実施 9 感染症にかかわる理解啓発支援
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○C S 委員会と教員との熟議及びC S 委員会と児童生徒会との熟議を実施することができた。 ○地域主催による英検、漢検等を実施することができた。 ○C S 委員会によるキャリア教育に関わる講師、事業所の紹介ができた。 ○地域による地域未来塾の運営ができた。 ○承認事項内容の事前配布ができた。 ○学園ホームページを更新することができた。 ○学園カレンダー・C S だよりを発行することができた。 ○にしみたかアクションプランの策定の検討を行うことができた。 ○感染症にかかわる理解啓発支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○承認事項内容の事前配布の徹底及び事前配布時期を検討する。 ○学園ホームページを適宜更新する。 ○C S 委員と教員との更なる交流（合同熟議）の機会を設定する。 ○より地域と連携した学園カレンダーを作成する。 ○にしみたかアクションプランの策定を決定する。 ○地域による英検等の実施に係る人財を確保できるようにする。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの改定・実施・検証に係る内容 ・地域キャリア教育の研究 ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	1 学園研究として「地域・キャリア教育」について取り組む。 2 「乗入れ授業」外国語活動と英語、体育と保健体育で実施 3 小・中一貫カリキュラムの改定 4 小学6年生対象プレ講座・二中紹介 5 部活動体験 6 児童・生徒代表者会を活用した「にしみたかアクションプラン」の策定（リモートによる代表者会）	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○学園研究「キャリア教育」は研究授業・講演会を実施することができた。 ○感染拡大中以外は乗り入れを実施することができた。 ○小6のプレ講座を7月に実施することができた。 ○カリキュラムの改定を実施することができた。 ○児童・生徒代表者会はオンライン等で実施することができた。 ○児童・生徒によるアクションプラン作成をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染拡大により部活動見学を中止した。 ○感染拡大により乗り入れの一部停止した。 ○感染拡大により児童・生徒の交流活動が中止した。 ○感染拡大に対応した交流活動を計画する。（例：DVD作成やオンライン交流） ○児童・生徒が主体的に取り組む行事の検討及び設定を行う。 ○児童・生徒の意見聴取の機会を設定する。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された学びと協働的な学び ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・GIGAスクール構想 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用 2 スタンダードによる教員の指導の統一 3 「学習習慣の定着」のため地域未来塾を活用 4 中学校部活動の活動時間にルールへの厳守 5 タブレット端末を有効活用した個に応じた教育の実施 6 UDの視点に立ったわかりやすい授業展開 7 「思考の場」を増やした授業展開 8 家庭学習の習慣化 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒による授業評価を年2回実施した。 ○地域未来塾を実施（中学：英語教室・英検対策教室）することができた。 ○部活動の活動時間を厳守することができた。 ○学習用タブレット端末の有効的な活用方法を検討することができた。 ○児童・生徒が思考する時間を増加することができた。 ○家庭学習の定着（eライブラリ利用）が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の授業評価の実施回数を削減する。 ○地域未来塾の活性化（主体的に取り組む）を図る。 ○思考力を高める授業展開の工夫を図る。 ○個別最適化に向けた学習用タブレット端末の有効活用を検討を図る。 ○基礎基本の定着を図るための補充学習を実施する。 ○学習用タブレット端末を活用した授業のユニバーサルデザイン化を図る。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・情報モラル教育 ・生活指導等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 「道徳における」思考力を高める授業の実践 2 いじめの早期発見早期解決を図る。 (3校でQ Uを実施、検証) 3 スマートフォン等情報機器活用教室の開催 4 学校行事等で、児童・生徒が「主体的に考え活動する」場の設定 5 感染症にかかわる、人権教育の推進 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業において考える時間が増加した。 ○ふれあい・Q Uアンケートを使いいじめの早期発見・解決に対応した。 ○情報機器に関するセーフティ教室を実施した。 ○児童・生徒が主体的に取り組む行事を設定することができた。 ○感染症にかかわる指導の徹底を図ることができた。 ○児童・生徒代表者会で統一のルールを設定した。 ○中学校校則を生徒主体で改定した。(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報機器の家庭での指導の徹底を図る。 ○デジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。 ○セーフティ教室を充実する。 ○教員の情報機器管理能力の育成を図る。 ○感染症にかかわる家庭への啓発活動の充実を図る。 ○校内におけるタブレット端末ルールの徹底を図る。(児童・生徒会)

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底 2 タブレット端末を活用したチェックリストの活用 3 1校1取組、1学級1取組の実施 4 給食を活用した食育の推進 5 中学における部活動の推進 6 中学校における「命の教育」・校内駅伝大会の実施（交通対策委員会） 7 感染症に対する理解啓発 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末を活用した早寝早起き朝ごはんの徹底を図ることができた。 ○校務支援システムを利用した健康観察を実施した。 ○1校1取組・1学級1取組を実施した。 ○給食による食育を実施した。 ○感染症対策を行い継続的な部活動を実施した。（全国大会） ○12月に助産師による命の教育及び駅伝を実施することができた。 ○感染症に対する理解啓発の取組みを行った。 ○中学校女子トイレに生理用品を設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1校1取組・1学級1取組の継続的な実施を図る。 ○給食による食育の充実を図る。 ○感染症対策を行い継続的な部活動の実施を図る。 ○引き続き12月に助産師による命の教育及び駅伝を実施できるようにする。 ○継続した感染症に対する理解啓発の取組みを行う。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・オリンピック・パラリンピック教育等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域キャリア教育の取組み（9年間継続したキャリア・パスポート） 2 学園研究により地域学習キャリア教育の取組み 3 レガシーとなるオリンピック・パラリンピックの推進 4 生涯スポーツの推進 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域キャリア教育の取組み（9年間継続したキャリア・パスポート）を図った。 ○学園研究により地域学習キャリア教育の取組みの推進を図った。 ○レガシーとなるオリンピック・パラリンピックの推進を図った。 ○体力向上を目的とした駅伝大会を交通対の協力により実施した。 ○生涯スポーツの推進を図った。（みたかウエストとの連携） ○地域による日本の伝統文化（茶道）を実施した。 ○地域の協力により、地域学習である「まちづくりプランナー」や職場訪問、職業講話を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学園研究による更なる地域キャリア教育の取組みの発展を図る。 ○地域との連携による地域学習キャリア教育の取組みの充実を図る。 ○引き続き、レガシーとなるオリンピック・パラリンピックの推進を図る。 ○生涯スポーツの推進の充実を図る。（地域等のボランティア活動）

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・ 教員のタイムマネジメント力の向上 ・ 人財の効果的活用 ・ 地域行事等への参加の工夫等 ・ 部活動の適正化 ・ 感染症対策 	
取組	1 長期休業期間中の休業日設定（夏季閉庁日の設定） 2 ノー残業デーの設定 3 教員の進行管理	4 C S 委員会と連携した人財の活用 5 部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 6 感染症対策及び人権意識の啓発
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業期間中の休業日（夏季閉庁日）を設定及び実施をした。 ○ノー残業デーを設定し、実施した。 ○教員の進行管理を行った。 ○C S 委員会と連携した人財の活用を図った。 ○部活動指導員や外部指導員の積極的な活用を図った。 ○感染症対策及び人権意識の啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業期間中の休業日の設定の拡充（夏季・冬季閉庁日の設定）を図る。 ○ノー残業デーの設定の拡充を図る。 ○引き続き、教員業務の進行管理を行う。 ○C S 委員会と連携した人財の活用の充実を図る。 ○部活動指導員や外部指導員の積極的な活用の拡充（休日の活用の充実）を図る。 ○感染症対策及び人権意識の啓発の継続的な指導を図る。

令和3年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	1 熟議を通してC Sと教員・子供たちとの意見交換 2 地域学習・キャリア教育においてC S委員会からの人財派遣等の支援 3 継続してオンライン・対面のハイブリットによるC S委員会を開催 4 「にしみたかアフタースクール構想」学校3部制に向けた準備 5 町会・事業所・大学との連携 6 各種検定の実施 7 C Sだより、カレンダーの発行
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	1 熟議を通してC Sと教員・子供たちとの意見交換 2 地域学習・キャリア教育においてC S委員会からの人財派遣等の支援 3 「にしみたかアフタースクール構想」学校3部制に向けた取り組み 4 町会・事業所・大学との連携 5 「あささんネット」の運用による。各種検定・C Sだより、カレンダーの発行
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	1 熟議を定期的実施（C S・教員や子ども熟議の定例化） 2 地域学習・キャリア教育においてC S委員会からの人財派遣等の支援 3 「にしみたかアフタースクール構想」学校3部制に向けた取り組み 4 町会・事業所・大学との連携強化 5 「あささんネット」の運用 6 子どもの意見聴取を行い、教育計画に具現化する。 7 地域に教員がかかわる具体的な取り組み

三鷹の森学園



令和3年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。	
取組	○スクール・コミュニティ推進員の活躍を通して、地域人財や保護者などによる「学園サポーター」や大学等との連携により「地域未来塾」をはじめとした地域・学校協働活動の取組を積極的に進め、地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ＳＣ推進員がコーディネーターとして、学校（担任）とゲストティーチャー、学園サポーターと繋いでくれることで担任の負担軽減になるだけでなく授業展開がよりスムーズになった。</p> <p>○「地域未来塾」を実施できなかった期間はあったが、実施可能になってからは計画通り進められた。</p> <p>○校内通級教室やスクールカウンセラーなどといった教育支援の選択肢のひとつとして「地域未来塾」が機能することができた。</p> <p>○児童アンケートからは「たくさん褒めてもらえて自信になった」「算数が好きになった」といった反応があった。</p> <p>○参加した児童・生徒、一人ひとりのニーズにあった取り組みとなり、個別最適化を推進することができた。</p>	<p>●「学園サポーター」は主に保護者が担っている。メンバーが固定している面もある。持続可能な取り組みするためにも今後は、アクティブシニア層にも加わってもらえるよう住民協議会等とも連携を図っていく。</p> <p>●小学校においては「地域未来塾」について担任、児童、保護者それぞれの共通理解を充実させより効果的な取り組みになるよう進めていく。より効果的な学年について校内で検討し、実施していく。</p> <p>●中学校においては、校内委員会とのつながりは継続し、支援の選択肢として活用していく。</p>

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。	
取組	○9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「学園版カリキュラム」に基づいて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指す実践研究に取り組む。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○コロナ禍で活動に制限のある中、研究会の実施の仕方を工夫し、昨年度作成した「カリキュラム・マネジメント」を活用した授業に取り組み、実践を進めることができた。</p> <p>○ＳＣ推進員及びＣＳ委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業ができた。ネットワークを活用することで、これまでのゲストティーチャーの考え方を超えた「知的資源」としての活用へとつながった。</p>	<p>●今年度の学園研究を受け、学園教員間のデータ共有を図り、「カリキュラム・マネジメント」の日常化、幅広い教育活動への広がりを図る。</p> <p>●学校とＳＣコーディネーターのさらなる連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行い、持続可能な教育活動へとつなげる。</p>

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	個別最適化された学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを推進する。	
取組	○各種学力調査のデータ等から個々の児童・生徒の課題を明らかにするとともに、1人1台タブレット端末PCや学習支援ツール等の活用により、児童・生徒が自らの学習を計画的に進められるようにする。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○GIGAスクールマイスターを中心として、校内での研修や校外における研修会を通して、教員が学習用タブレット端末の有効な活用方法の開発や工夫に取り組むことで、学習用タブレット端末導入前と比べて授業の「分かりやすさ」「取り組みやすさ」を向上させることができた。</p> <p>○児童・生徒は、学習用タブレット端末の操作にも慣れ、特に苦にすることなく活用し、学びを深めることができた。</p>	<p>●学習内容の発表などでは、学年が上がるほど発表内容が高度になるため、学年の系統性を大切にされた教科横断的な取り組みを充実させていくことが必要である。</p> <p>●児童・生徒が自らの学習を計画的に進めることができるように、さらに学習用タブレット端末を活用した指導の工夫と充実を図っていく必要がある。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切に、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。	
取組	<p>○「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域の教育資源の活用を図る。</p> <p>●感染予防対策に万全を期しながら、地域活動や児童・生徒交流を主とした学園の特別活動の充実を図る。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○中学校では、SC推進員の協力も得ながら、第2学年のオンライン職場体験学習で海外自動車メーカーの講師を招き、職業人と双方向のやり取りを行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえながら、生徒が積極的に学ぶことのできる教育活動の充実を図った。</p> <p>○小学校では、教育資源の活用として、地域の和菓子職人や消防団への取材動画を踏まえた学習を行ったことで、児童の多様な人々から学ぶ機会と学ぶ意欲につなげることができた。</p> <p>○引き続き感染症対策を踏まえながら、工夫した学校生活と他者との関わりについて子どもたちの意識向上を図った。物理的な距離は取りながら協働して課題解決に取り組むことができた。</p>	<p>●学園内の情報共有、CS委員会との連携を充実させながら、他の活動においてもICT機器の活用等により可能になる教育活動の充実を図る。</p> <p>●年間指導計画に基づき、多様な教科において、乗り入れ教員、地域人財等、教育資源の活用の充実を図る。</p> <p>●感染症対策で制限される教育活動からの発想の転換を図り、多様な方々の協力を得ながら工夫した学習活動につなげる。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。	
取組	○学園の共通課題である「体力・運動能力の向上」の実現に向けて中学校保健体育科教員の小学校への乗り入れ授業を活用するとともに、児童・生徒の課題に応じた「一校一取組」「一学級一実践」を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○短縄や長縄などの縄跳びに継続的に取り組んだり、昼休みの体力づくりを実施したりしながら、体力・運動能力の向上に取り組むことができた。</p> <p>○中学校教員による小学校体育への乗り入れ授業によって、専門性を生かしたきめ細やかな指導が展開できた。児童たちも中学校での学習への見通しをもって、学習意欲を高めていた。</p>	<p>●望ましい生活習慣の育成については、様々な場面を活用して児童の意識を高めるとともに、保護者への啓蒙も併せて行うことが必要であると考え。学校便り等を活用し、継続して伝えていく。</p> <p>●体力・運動能力調査の結果を踏まえ、「一校一取組」「一学級一実践」の内容について引き続き改善を図る。</p>

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。	
取組	○9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「学園版カリキュラム」に基づいて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指す実践研究に取り組む。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○コロナ禍で活動に制限のある中、研究会の実施の仕方を工夫し、昨年度作成した「カリキュラム・マネジメント」を活用した授業に取り組み、実践を進めることができた。</p> <p>○S C推進員及びC S委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業ができた。ネットワークを活用することで、これまでのゲストティーチャーの考え方を超えた「知的資源」としての活用へとつながった。</p>	<p>●今年度の学園研究を受け、学園教員間のデータ共有を図り、「カリキュラム・マネジメント」の日常化、幅広い教育活動への広がりを図る。</p> <p>●学校とS Cコーディネーターのさらなる連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行い、持続可能な教育活動へとつなげる。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。	
取組	●オンラインと対面それぞれの利点を生かしたメリハリのある学園会議・研究会の運営や、SC推進員・SSSなどのスタッフの活躍による業務の改善に取り組むとともに、学園の諸事業についても学園目標に照らして重点化を図ることにより充実と合理化・スリム化を両立する。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○校務処理の効率化やスタッフの活用、必要に応じてオンラインで会議を行うなど、業務の軽減は昨年度より一層進み、働き方改革につながる成果が出ている。</p> <p>○働き方改革に対する教職員の意識が昨年度に続いて向上し、タイムマネジメントをする教職員が増えたことは成果である。しかし、学校によって繁忙期が異なり、その期間は残業時間が大きく増える教員が出てきている。</p>	<p>●働き方改革に関する研修などをさらに取り入れ、教員自身の意識改革を一層進めるとともに、個人レベルから学校全体での業務の見直しを推進していく必要がある。</p> <p>●今年度も、新型コロナウイルス対応による業務量増加の影響で、業務量の大幅な減少にはいたっていない。日常業務を減らした分を新型コロナウイルス対応の業務に取られてしまう実情がある。来年度も同様の状況下であることが考えられるが、実効性をもった具体的な取組（人員増や学校がやるべきことの精選）を推進することが一層必要である。</p>

令和3年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>○SC推進員を通して地域の協力を得て、各学校がそれぞれの課題とニーズに応じて「地域未来塾」の運営を推進することができた。</p> <p>○コロナ禍の中にあっても、学園研究会の実施方法を工夫することで、昨年までの研究成果を踏まえた「カリキュラム・マネジメント」の実践化を進めることができた。</p> <p>○「地域の教育資源=ゲストティーチャー」という固定化したイメージから発展的に脱却する糸口を見出すことができた。</p> <p>○教室におけるICT活用について校内組織や実践開発の方法を工夫しながら取り組み、オンライン授業や、指導の個別化への対応を進めることができた。</p>
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>●従来の小・中交流、小・小交流を踏襲するだけではなく、機会が限られても充実を図ることができるよう内容と方法の工夫が必要である。</p> <p>●研究から実践への橋渡しとなった令和3年度の学園研究を受け、次年度はより幅広い教育活動において実践の「日常化」を図る必要がある。</p> <p>●SC推進員のコーディネート機能の充実を通して、地域の教育資源の掘り起こしと見える化に取り組む必要がある。</p> <p>●学園・各校の様々な教育活動においても、タブレット端末やネットワーク等のより効果的な活用と工夫を図ることで取組の充実を図りたい。</p>
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<p>◎児童・生徒会交流会の実施方法を見直し、1回のイベントではなく、より多くの児童・生徒が参加できる継続的な取組として再構築する。</p> <p>◎授業だけではなく、特別活動等においてもカリキュラム・マネジメントを進めるとともに、学園教員間のデータ共有を図ることで実践を広げる。</p> <p>◎「学校3部制」についてCS委員会や学園会議で熟議を通して今後の展開のビジョンを明らかにするとともに、「第3部」が学校にとっての教育資源としても機能するような方策を検討する。</p> <p>◎SC推進員との連携を向上させるために「地域未来塾」や各種検定の運営について広報に努めるとともに、教職員からの依頼・相談の方法について整備を進める。</p> <p>◎情報リテラシーに重点を置いたデジタル・シティズンシップの育成を図りながらICTを活用した児童・生徒の交流活動を進めるとともに、学園研究や学園会議など教職員の協働についてもICTの利点を生かした取り組みを推進する。</p>

三鷹中央学園



令和3年度 三鷹中央学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	コミュニティ・スクール委員会の組織を活用し、連携しながら、学校、保護者、地域が一体となった取組を推進し、協議と支援の充実を図り、目指す学園生像の実現に努める。	
取組	<p>①地域協働活動の充実を目指し、CS委員会の役割と担当をより一層明確にして、誰もが役割を担えるよう、運営体制を確立させていく。</p> <p>②これまでの成果を活かしつつ、学園の教務担当と調整するなどして百人熟議等の協議や合同研修の機会を充実させるとともに、市政70周年記念事業に協力し、その成果を広く他に提供していく。</p> <p>③年度初めから、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、新しい学習ボランティアの募集システムの理解を深めるとともに円滑な活用が図れるようにしていく。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>①学園・学校評価アンケートの手法や成果のまとめ方を工夫することでより効果的に評価を実施することができた。</p> <p>②学校公開日にCS委員会を開催し、地域と学校の双方が参加しやすい状況を作り出すことができた。三鷹教育フォーラム2021では熟議の実際を全国に広く紹介し、熟議の持ち方などの課題を得ることができた。</p> <p>③学習ボランティアの活用について、綿密な連絡・調整によって新しい募集システムを活かし、各校の教育活動の充実を図ることができた。</p>	<p>①地域協働活動の充実を目指し、CS委員会の役割と担当をより一層明確にして、誰もが役割を担えるよう、運営体制を確立させていく。</p> <p>②次年度も引き続き、学園の教務担当と調整するなどして百人熟議等の協議や合同研修の機会を充実させていく。</p> <p>③本年度末及び新年度初めから、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、新しい学習ボランティアの募集システムの理解を深めるとともに円滑な活用が図れるようにしていく。</p>

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<p>「15歳の姿に責任をもつ」教育活動を推進する。</p> <p>①学園研究会を核として、思考力や表現力等を育む指導を工夫する。</p> <p>②交流活動の一層の充実を図る。</p>	
取組	<p>①本学園カリキュラムを実証する研究を進め、児童・生徒が学習でつまづくことなく理解を深めていけるよう、指導のポイントを明確にしていくための授業を実践していく。</p> <p>②子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>①学園研究として各教科分科会を中心として、本学園版の小・中一貫カリキュラムを分科会ごとに実践例を検討することができた。また、学習でのつまづきを解消し理解を深めさせることができた。</p> <p>②交流活動に制限があったものの、新しい生活様式に基づいた活動を工夫し、間接的な交流を中心に活動することができた。学校だより・学園学校ホームページ等で紹介することで学校評価アンケートでの肯定的な評価も各校とともに向上させてきている。</p>	<p>①本年度に引き続き、作成したカリキュラムを日常の実証を進め、児童・生徒が学習でつまづくことなく理解を深めていけるよう、指導のポイントを明確にしていくための授業を実践していく。</p> <p>②本年度に引き続き、子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。</p>

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	「三鷹中央学園パワーアップ・アクションプラン・すすんで学ぶ人」の取組内容を基に、学校・家庭・地域の実践内容を具体的に展開し、学習習慣の改善を図り、確かな学力を育む。	
取組	<p>①小・中学校ともに基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた適切な指導によって学力の向上を図っていく。そのための一つの方策として、パワーアップ・アクションプランで学力の向上をテーマとするなどして議論を深めるとともに、家庭学習の取り組み方の目安等を具体的に家庭に事例として紹介していく等のアイデアを出し合っ、さらなる充実を図れるようにしていく。</p> <p>②各校における状況に応じて望ましい読書の習慣化が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>①教育フォーラム 2021 で百人熟議は実施できなかったが、パワーアップ・アクションプラン改訂に向けての方向性を見出す議論ができた。各校において、個に応じた適切な指導の充実を図る取組を実施することができた。</p> <p>②徐々に各校が目標とする読書活動も充実してきている。また、学校図書館を利用した調べ学習もできるようになってきている。</p>	<p>①小・中学校ともに基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた適切な指導によって学力の向上を図っていく。そのための一つの方策として、パワーアップ・アクションプラン改訂に向け、学力の向上をテーマとするなどして議論を深めるとともに、家庭学習の取り組み方の目安などアイデアを出し合っ、さらなる充実を図れるようにしていく。</p> <p>②各校における状況に応じて望ましい読書の習慣化を図っていくとともに、目的に応じてタブレット端末や学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	地域・保護者と連携し、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施して、いじめを防止する。また、学園生活指導重点目標の実現を図り、自己肯定感・自己有用感をもつ学園生を育む。	
取組	<p>①低学年の児童の自主的なあいさつが少ないと地域の方からもご指摘があることから、引き続き、各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実を努めていく。</p> <p>②家庭との連絡を密にしなが、組織的な支援を充実し、子供の悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組を分かりやすく保護者に伝えていく。</p> <p>③防災教育の実施や市防災訓練への参加等を通して、一人一人が活躍できる場や成就感をもてる場を作り、ほめて励ますことを徹底して、どの子も自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていく。その結果、児童・生徒アンケートで最良回答の増を目指す。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>①あいさつ運動などの実施によって徐々に児童・生徒の意識も高まってきている。</p> <p>②学園・学校評価アンケートでは、いじめや暴力のない学校づくりへの取組に関して、各校の肯定的回答が増加傾向にある。</p> <p>③学校だけでなく、保護者や地域住民の協力を得て、ほめて励ます場を大切にし、声掛けや表彰等を積極的に行うことで、自己肯定感・自己有用感も高まってきている。</p>	<p>①低学年の児童の自主的なあいさつが少ないと地域の方から指摘があることから、引き続き、各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実を努めていく。</p> <p>②家庭との連絡を密にしなが、組織的な支援を充実し、子どもの悩みや不安を取り除くとともに、学校の取組を分かりやすく保護者に伝えていく。</p> <p>③一人一人が活躍できる場や成就感をもてる場を作り、ほめて励ますことを徹底して、どの子も自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていく。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	発達段階に応じた体力・運動能力・防衛体力が身に付くように、生涯にわたって健康や体力に興味・関心をもち、自ら取り組もうとする態度を育む。	
取組	①各校の体力・運動の能力の実態に応じて、日常の体育の授業や休み時間における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ②単なるイベントへの参加や体験に終わることなく、各校の体力づくりの取組や総合的な学習の時間の工夫を通して、大会後もレガシーとして継続して実施できる活動を確立していく。	
	成果	課題と改善方策
	①コロナ禍によって活動は制限されたものの、各学校の評価アンケートでは体力・運動能力の向上への取組に関して概ね良好である。体育の授業や休み時間の遊び等を通しての成果が表れている。 ②東京オリンピック・パラリンピックの直接参観は叶わなかったが、各校で計画したトップアスリート等との交流を通じた取り組みを実施することで、児童・生徒の大会への期待感と競技への関心を高めることができた。	①各校の体力・運動の能力の実態に応じて、日常の体育の授業や休み時間における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ②大会後もレガシーとして継続して、単なるイベントへの参加や体験に終わることなく、各校の体力づくりの取組や総合的な学習の時間を工夫していく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	スクール・コミュニティの充実に向け、関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、放課後子どもクラブ、みたか地域未来塾、部活動など児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。	
取組	①関係諸機関との協働により、地域子どもクラブ、みたか地域未来塾、部活動等における学びの時間や内容を充実する。また、児童・生徒が漢字・英語・数学等の各種検定の実施など地域で学べる機会を維持していく。 ②コロナ禍における対策を講じる中で、青少対・交通対など地域関係諸団体との連絡・相談を密にして、地区の子ども祭りや交通安全教室などの協働実施を通して、児童・生徒の健全育成を図っていく。	
	成果	課題と改善方策
	①感染対策を施しながら、各校の状況に応じて、地域子どもクラブ、みたか地域未来塾を効果的に実施し学びの時間を補償することができた。また、学年限定であったが各種検定を継続して実施し学びの機会を維持することができた。 ②コロナ禍においても青少対・交通対との連絡・相談を密にして、交通安全教室や子ども祭りを適正に実施できるよう協力し、児童・生徒の健全育成に寄与することができた。	①関係諸機関との連携によって、地域子どもクラブ、みたか地域未来塾、部活動等の機会を増やし内容を充実させていく。また、児童・生徒が漢字・英語・数学等の各種検定の実施など地域での学びの機会を維持していく。 ②新しい生活様式に応じた地区の子ども祭りや交通安全教室など青少対・交通対など地域関係諸団体との協働実施を通して、児童・生徒の健全育成を図っていく。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員が意欲をもって、前向きに職務に取り組めるようにするため、実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	
取組	①取組の充実のための工夫、保護者への広報を引き続き、学園として3校で徹底していく。 ②新しいシステムのより効果的な活用や校内での事務作業にかかる時間の短縮などを図るとともに、コミュニティ・スクール委員会との合同研修を休日の学校公開日に実施するなどの工夫を進め、勤務時間内の仕事として調整していく。	
	成果	課題と改善方策
	①学園で働き方改革を推進することで教育の充実を図っていくという本来の趣旨に則り、学園の教員のほとんどが取り組むことができています。 ②新しい生活様式に基づいて、みたか未来塾やスクール・サポート・スタッフ等のシステム、会議の短縮やペーパーレス化等の仕組みを活用し、事務作業の縮減を図ることができた。コミュニティ・スクール委員会との合同研修を休日の授業日に行い、勤務時間内の仕事として実施することができた。	①取り組み方や保護者への広報の仕方を工夫し、学園として3校で徹底していく。 ②新しいシステムのより効果的な活用や校内での事務作業にかかる時間の短縮を図っていく。特に、中学校における部活動の指導体制の改善を図っていく。また、引き続き、コミュニティ・スクール委員会との合同研修を休日の学校公開日に実施するなどの工夫を進め、勤務時間内の仕事として調整していく。

令和3年度 三鷹中央学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	本年度の取組として、次の4点についての取組でよい成果が得られた。 ①学園研究を通して、日常の指導において、学習でのつまずきを解消し理解を深めさせることができた。 ②学習ボランティアの活用について、綿密な連絡・調整によって新しい募集システムを活かし、各校の教育活動の充実を図ることができた。 ③学園・学校評価アンケートの手法や成果のまとめ方を工夫することでより効果的に評価を実施することができた。学校だより・学園学校ホームページ等で紹介することで学校評価アンケートでの肯定的な評価も各校とともに向上してきている。 ④三鷹教育フォーラム2021では熟議の実際を全国に広く紹介し、熟議の持ち方などの課題を得ることができた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	本年度の課題のうち、次の3点を次年度の重点課題とする。学園・学校評価アンケートの結果から、①は昨年度比4%増と低く、継続して改善していく必要がある。②は昨年度比73%増であるので、毎年、低学年のあいさつが少ないとのご意見もあることから、引き続き、改善していく必要がある。③は昨年度比9%増であるが、各校の実態に即して改善を図っていく必要がある。 ①地域人財や学習ボランティアを積極的に活用すること。 ②子どもたちがあいさつをすること。 ③子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を行うこと。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	次年度の3つの重点課題を解決していくために、次の3点のように取り組み改善していく。 ①取組の工夫、保護者への広報を学園で徹底し、学園で働き方改革を推進することで、教育の充実を図る。 ②あいさつは日常生活の基本である。各家庭でのあいさつの励行を進め、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実によって、あいさつの定着を図る。③各校の実態に即して各教科や総合的な学習な時間等でキャリア教育につながる学習を充実させ、子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考えることができる授業を実践していく。

鷹南学園



令和3年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	①CS委員会の意義や役割を明確にし、学園運営に一層生かしていく。 ②スクール・コミュニティの核としての役割を果たすためネットワークづくりを進める。	
取組	①研修会や熟議を開催し、CS委員会やCS部会の意義や役割の合意形成を丁寧に進め、創造的で持続可能な取り組みを進める。 ②放課後の子供の活動場所を提供している団体のメーリングリストを作成し、適時連絡を取り合えるネットワークを構築する。年間活動予定を共有し、協働を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会を構成する委員が所属する団体の年間活動を一覧表にまとめ、視覚化することでスクール・コミュニティのネットワークがよくわかり、意識が高まった。 ・CS委と教員の熟議を実現し、連携・支援の意識が高まった。 ・CSサポート部と中学年の総合的な学習の時間の連携事業を実現し、サポート体制を拡充することができた。 ・CSフォーラム発表を機会に、学園やCSの良さを見直し、新たな発展を展望することができた。 ・人の交流が制限される中、学校施設の消毒、鷹南コンサートオンライン開催、鷹南カレンダーの作成など、多くの成果を上げることができた。 ・メールやSNSを活用し、CS役員、管理職、CS部内においてこまめに連絡を取り合って効率的にCS委員会や部会の運営をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園、学校運営に関する協議や、学校支援事業に関する協議についてその意義や目的、方法等については引き続き十分に話し合う機会を設け、常に合意形成を図っていく必要がある。 ・新型コロナの影響が長引くことが予想される。リモート会議等が円滑にできるよう環境整備を急ぐ必要がある。 ・鷹南会、異文化交流などが実施できなかった。創意あふれる工夫を継続して考えていく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	①相互乗り入れ授業の一層の充実を図る。 ②学園行事の内容の精選・検証を行い、質を高めるとともに交流活動の充実を図る。	
取組	①乗り入れ授業を学園研究のテーマに掲げて、学園の全教員で乗り入れに関わる体制を作る。ここまで培われてきた学園行事については学園生主体の取り組みになるよう、検証し、意義や目的を考え、取り組みの変更や活動内容の工夫をしていく。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究として乗り入れ授業を視野に入れた教科指導について実践的な取り組みを検討し、乗り入れの活用方法を深めることができた。CS委員会評価部からのアンケートや児童・生徒のアンケート、感想からも一定の成果を上げているといえる。 ・新型コロナ感染症の影響下にあったが、今年度も、第6学年の中学クラブ体験、小・中挨拶運動、第5、6学年の中学校オリエンテーション、兄弟学年のメッセージのやり取り等による交流など、児童・生徒の交流活動を工夫しながら行えた。感想等から児童・生徒がその目的を意識しながら取り組んだことが分かり、成果といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ授業については、今年度の研究をさらに進めてより多くの教員がかかわる体制を作り、小・中一貫した指導についての意識をさらに学園全体に広げ、指導を充実させていく必要がある。そのために、学園研究を計画的に進め、すべての教科で乗り入れの実践を考えていく。三鷹市の学力調査を活用し学力についても検証していく。 ・新型コロナ感染症の影響で、学園集会や対面での兄弟学年交流が実施できなかった。次年度その意義や目的に照らして内容や方法について工夫し、実践し検証していく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	①新学習指導要領小・中完全実施を踏まえた授業改善 ②基礎学力や学習習慣の定着を進める。 ③改訂版鷹南スタンダードを浸透させる。	
取組	①鷹南学園カリキュラムに基づいて主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を推進するとともに、タブレット端末を活用した個別最適化された学びを充実させる。 ②地域未来塾やタブレット端末を活用し、学習支援をしながら家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ③改訂版鷹南学習スタンダードの定着のため保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化し、児童・生徒への指導に生かす。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用し、家庭と学校の教育活動を結び付け、児童、生徒の資質・能力を育成する主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善では、各校の課題に応じた校内研究会で進めることができたことは、日常の授業改善につながり、とても有効であった。 ・コロナ禍において、地域未来塾等の取組も制限されたが、地域の皆様のご協力のおかげで、継続して実施することができ、個々の子供の学びの保障につながった。 ・鷹南スタンダード学習編の改訂を行い、その指導の浸透に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用について先進的な東台小学校の取り組みを十分に共有できたとは言えない状況がみられる。今後学園研究分科会などの教員同士の交流を通して成果を分かち合っていく。 ・各校の校内研究会を学園研究会として、互いに授業を見合う機会ができたが、より大勢が参加できる環境を整えていくため時間を保証していく。 ・新しい生活様式に基づく教育改革の視点において、この学力の保障については、その方法も多様に考えていくことが課題となる。デジタル・シティズンシップ教育を進め子どもが自在にICT機器を活用できるようにしていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	①改訂版「鷹南スタンダード（生活のスタンダード）」を浸透させる。 ②人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。	
取組	①改訂版鷹南生活スタンダードを一層、焦点化、重点化したものにした上で、保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化し、児童・生徒への指導に生かす。 ②人権尊重の精神を浸透させる。教師が手本を示し、いじめ防止やいじめの対応に全力で取り組む。当事者や保護者にきちんと説明して納得を得るようにする。さらに学校行事・学園行事やボランティア活動を通して自己有用感や肯定感を高める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹南スタンダードの生活編においても学園運営委員会で検討し、各校の生活指導部を中心に改訂案を出し合い、今後、実践をとってより良いものにしていく見通しがもてたことが成果である。 ・コロナ禍においても中原小の人尊校としての実践は学園で共有でき、特に道徳授業地区公開講座では、地域ぐるみの心の教育の実践、取組ができたことは大きな成果と言える。 ・学園の交流活動は制限される中、学園長の方針で、形を変えてでもねらいを達成させたいという思いから、教員のアイデアをもとに交流ができたことは成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹南スタンダードの学習編とともに、学習と生活は一体であり切り離せないという認識を高め、より日常的に活用できるスタンダードに改訂するとともに、家庭生活で汎用されるようにすることが今後の課題である。来年度は改訂版を完成させるとともにCS委員会等、保護者と連携を図る具体策も検討していく。 ・コロナ禍における対策を施したうえで、道徳授業地区公開講座等の具体策を各校で共有し、学園として一体感のある心の教育の実践することが課題である。そのために中原小学校を拠点として2校がその成果をいかして実践に取り組む。 ・理念を継承し、方法を改革することが課題となる。来年度は、より教員のアイデアを生かし、1人1台のタブレット端末を活用した交流等も視野に入れて実践する。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	①学園運営委員会を活用し、学園における健康・体力育成上の課題に対応する。	
取組	①学園運営委員会では今年度も「体力部会」を設定し、調査等を分析する。教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行い、重点的取り組みを明確化する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が制限される状況が続いていることから、児童生徒の体力低下が懸念された。また、学園運営委員会においても「体力部会」の活動も十分にできなかった。ただその中でも、各校において、体育の時間の工夫した取り組み、昼休みの校庭開放・体育館を開放した運動の促進、体育大会・運動会の実施の実施、オリンピック・パラリンピック教育の活用など、意図的・計画的な取り組みによって、児童・生徒の運動量の確保ができたのは成果である。 ・中学校の部活動は状況に合わせて柔軟に活動を続け、低下している体力が徐々にではあるが目に見えるほどに回復することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度、体力調査が実施できれば、学園運営委員会「体力部会」を設定し、調査等を分析し、授業改善や教育課程編成に向けての資料の作成を行い、重点的取り組みを明確化する。 ・児童生徒の体力低下の懸念に対して、一部、体力低下が著しいままの児童・生徒も散見された。各校の体育担当等が意図的・計画的な取り組みを行い、縄跳び週間・マラソン週間など、重点的取り組みを明確にし、運動する機会を確保・増加することで体力向上が期待できる。 ・情報の引継ぎができるよう、小学校の情報を共有できるようにしたことから、今後、それらをどのように生かしながら、重点的取り組みへリンクさせていくか、その具体を検討し、実際の活動に結び付けていく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	①地域の人財を活用して総合的な学習の時間の充実を図る。 ②キャリア・パスポートを活用して自己肯定感を育てていく。	
取組	①地域自慢の学習、キャリア教育等に地域人財を活用していく。 ②節目ごとに自己の成長を自覚させる機会を設けコーチングをベースに自信をもたせる。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・中原小、東台小第3学年の総合的な学習の時間の単元を開発し、CS サポート部を中心に地域学習を支える体制を築き、充実させることができた。また、中学校においても進路指導を充実させることができた。 ・各校ごとに別々に取り組んでいたキャリア・パスポートの取り組みを、ファイルや形式をそろえるなど学園として一本化することができた。子どものよさを引き出す観点でコーチングを基本に寄り添う指導を浸透させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、適宜オンラインやビデオを活用したので、今後それを撮りためて資料として充実を図っていく。対面の機会模索していく。 ・キャリア・パスポートを節目ごとにさらに活用し、保護者との連携にも積極的に活用していく。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	①教員のタイムマネジメント力の向上 ②地域行事等への参加の工夫等	
取組	① ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにする。 ② 地域行事については、年度当初から見通しをもち、計画的に参加ができるようにする。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症不安で登校を見合わせる子ども、閉鎖などで自宅に待機している子どもに対しオンラインで学習活動をサポートすることができ、学力の保障に寄与した。 ・ICTを活用し、教員のタイムマネジメントは行うことはできた。 ・地域行事については、一部の行事が実施され、教員も計画的に参加する姿が見られた。また多くの児童が参加した。 ・部活動指導について、複数の顧問の配置ができた部活動の中には、顧問同士で調整をして、円滑な活動を行うことができ、生徒の満足度も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用し、子どもとオンラインで学習活動を展開することができてきたが、更に「個別最適化な学び」のために、その活用法を共有し、洗練していく必要がある。 ・感染症の影響で、予定が定まらず、感染防止対策への対応・授業時数の確保等により、教員の仕事量が増えたことで、タイムマネジメント力の向上は課題である。様々な場合を想定し、柔軟に対応することやICTの活用を進めて、意図的計画的なタイムマネジメント力の育成を図りたい。 ・今年度の地域行事はその多くが中止になった。来年度は参加できる状態になってほしい。 ・部活動の多くが勤務時間外での活動であることで複数顧問の配置が全部活動ではできず、一部教員に大きな負担になった。外部指導員も顧問の適正な配置を目指す、厳しい状況が続いている。

令和3年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とCS委との熟議の実現などCSとの連携が進み、よりよい子供の育ちにつなげることができた。 ・CSフォーラム発表を機会とし、学園やCSの良さに気づき、新たなる展望につなげることができた。 ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に学校ごとのよさを生かして取り組み、具体的な授業モデルが明らかになってきた。 ・学園生の健全育成上の課題を学校・地域・家庭で共有し、課題解決に向けて考えることができた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会の目的等について引き続き合意形成を進め、スクール・コミュニティの核を目指す。 ② 学園生の交流活動や乗り入れについて意義や目的を考え、さらに工夫し、効果を上げていく。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向けて、タブレット端末の活用・個別最適化を踏まえた実践をしていく。 ④ 小・中一貫して学園生の心を豊かにし、一層安心して楽しく学園生活を送っていけるようにする。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
<ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会において研修や熟議を行い、合意形成を丁寧にししながらスクール・コミュニティのネットワークを構築する。 ② 学園生のための交流活動となるよう、丁寧に検証する。また、学園研究をとおして全教員で乗り入れに取り組む。 ③ 研究協力校を活用し、主体的・対話的で深い学び、個別最適化の取り組みを3校で推進し、成果を世に問うていく。 ④ 保護者と連携して改訂版鷹南スタンダードの徹底・検証・改善に一貫して取り組み、健全育成を支えていく。 	

東三鷹学園



令和3年度 東三鷹学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1 東三鷹学園スタンダードの充実 2 CS委員会や学園のPR活動の推進	3 サポート隊の充実、地域人財の活用、教育ボランティア 4 スクール・コミュニティの創造に係る
取組	1 より効果的に東三鷹学園スタンダードを取り組めるように、教員とCS委員が連携して改善を図る。 2 学園カレンダーをCS委員会と連携して作成する。CSだよりや学園HPの充実を図る。 3 学園としてのサポート隊事務局を立ち上げる。また、地域人財を効果的に活用した教育活動を推進する。 4 学校を核とした地域づくりの発展を目指し、学園として、地域の特性を生かした連携の場と、人を地域に提供していく。	
	成果	課題と改善方策
	1 東三鷹学園スタンダードをキャリア・パスポートの主旨を踏まえて改訂した。保護者会、CSだよりを活用して周知するとともに、各家庭で効果的に活用した実践事例を紹介した。児童・生徒の取組は、定着してきている。 2 学園カレンダー作成のために、プロジェクトチームとしてカレンダー部会を新設し作成した。CS委員会を中心に学校と地域団体をつなぐ手立てにもなっている。広報部を中心にCSだより（1～3号）を発行した。 3 ボランティア募集システムを学園として運用することができた。SC推進員が推進役となり、3校のサポート隊が連携した取組になっている。 4 職場体験、農業体験、校外活動等、さらに授業の中で地域の方と連携した教育活動を行っている。CS委員会が人財確保などの中心になって活動できた。	1 保護者の協力や理解をさらに推進することが課題である。転入した教員を中心に理解できる機会を、引き続き設けていく。 2 学園カレンダーは今年度で2回目の作成になる。昨年度の反省を踏まえ、プロジェクトチームで取り組んだ。作成のプロセスや課題を明確にして次年度につなげることが課題である。また、学園ホームページを充実させていくことが課題である。 3 感染対策で実際にサポートできる活動は少なくなっているが、より充実したサポート隊の活動になるように、さらに3校の事務局の連携を強めていくことが課題である。 4 今後も地域と連携した教育活動をさらに推進、充実していくことが課題である。また、学校3部制の実現に向けて、学校と地域が連携して推進していくことが課題である。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2 相互乗り入れ授業の充実 3 児童・生徒の交流活動の充実	
取組	1 学園カリキュラムに沿って、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした授業改善を推進するとともに、カリキュラムの改善を図る。 2 小・中学校間の相互乗り入れ授業を推進する。（中→小：保健体育）（小→中：一年生への支援） 3-1 小・小学校、小・中学校の交流活動を推進して人間関係を深める。 3-2 TEH（学園生徒会・児童会）の活動を推進し学園の自治意識を高める。	
	成果	課題と改善方策
	1 学園研究会として、全教科の研究授業を、3校を会場として実施した。さらに、教科ごとに成果・課題をまとめ、年度末に実践報告会を実施し、全教員で研究成果を共有した。 2 感染拡大の時期以外は、小から中、中から小への乗り入れ授業を実施した。児童・生徒理解や個別の支援等への指導に有効であった。また、小・中の教員の指導の幅を広げる機会にもなった。 3-1 感染拡大の時期に、実施できない交流もあったが、できる限り方法を工夫して実施してきた。児童・生徒にとって貴重な経験となった。 3-2 リモートと対面を組み合わせ、児童・生徒の話し合いを実施した。あいさつ運動をTEHが計画立案して実施した。また、全国コミュニティ・スクール大会では、児童・生徒とCS委員との熟議を実施し、大人と子どもで地域の未来をともに考える機会となった。	1 感染対策を講じつつ、オンラインを活用し、分科会や打合せ等を実施し、学園全体としての授業改善を継続していくことが課題である。また、学習用タブレット端末を活用した個別最適化された学習を目指したカリキュラムへ改善していくことが課題である。 2 乗り入れ授業の教科や方法をより効果的にするために、継続的に工夫・改善していくことが課題である。 3-1 児童・生徒に小・中一貫校としての意識を高めるため、また、人間力・社会力の育成のためにも、実施方法を工夫し、可能な限り交流活動を実施していくことが、今後の課題である。 3-2 今年度、児童・生徒とCS委員の熟議を行い、子どもたちは意欲的に参加した。今後、主体的な姿勢を育てていくためにも、熟議を継続的に実施していくことが課題である。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1 基礎学力の向上 2 教員の指導力の向上	3 家庭学習の充実 4 みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等
取組	<p>1-1 個別最適化した学習を推進し、確かな学力を一人ひとりに定着を図る。特に個に応じた指導の徹底、ICT機器の積極的な活用（GIGAスクール構想）、学園としてのコンテスト（JMコン）を実施する。</p> <p>1-2 小・中学校で「みたか地域未来塾」を効果的に実施し、補充学習の充実を図る。</p> <p>2-1 学園研究会の充実を図り、研究の成果を日常の授業で実践できるようにする。授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進。主体的・対話的で深い学びの推進。</p> <p>2-2 三鷹市小・中一貫カリキュラムに沿って作成した東三鷹学園版カリキュラムや三鷹「学び」のスタンダードを活用して授業の質的改善を図る。</p> <p>3 家庭と協働して、家庭学習を推進する。</p> <p>4 地域の人財や、学生ボランティアを最大限に利用して、放課後や長期休業中の児童・生徒の学習の手助けを進めていく。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>1-1 JMコンは予定通り行うことができた。一人1台タブレット端末が導入され、それを活用した学習を行っている。個別最適化された学びを目指し、オンライン学習にも対応できるように、活用を積み重ねている。</p> <p>1-2 中止せざるを得ない期間はあったが、各校の実情に合わせ、きめ細やかな指導を行えた。</p> <p>2-1 学園合同研究授業を3回行った。それに加え、各校でテーマを決め、授業を中心とした研究を行った。</p> <p>2-2 身に付けてきた新しい学習様式により、活動が制限される中、教員一人ひとりが今できる限りの授業改善を行った。</p> <p>3 一人1台タブレット端末の導入により、各家庭との学習についての共有ができるようになった。</p> <p>4 ジャンプアップや授業補助に学生ボランティアを活用できた。</p>	<p>1-1 一人1台タブレット端末を学習のツールとして、協働的な学びと融合した令和の日本型学校教育の実現を図っていく。</p> <p>1-2 みたか地域未来塾の講師の人数を増やし、少しでも多くの児童・生徒の学力の底上げを図っていく。</p> <p>2-1 学園研のテーマの下、小・中の教員が方向性を同じにし、数多くの授業を行い、児童・生徒の変容を図っていく。</p> <p>2-2 新年度も学園版カリキュラムの改善を継続していく。</p> <p>3 一人1台タブレット端末を有効に活用し、家庭でも自分に合わせた課題に取り組めるよう、家庭にもやり方を周知していく。</p> <p>4 学生ボランティアの枠をさらに広げ、個別対応等効果の向上を図る。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1 人権と言葉を大切にしたい指導の推進 2 情報モラル教育の推進	
取組	<p>1-1 いじめの根絶、体罰0を目指す教育を推進する。</p> <p>1-2 学園として挨拶運動を推進する。</p> <p>1-3 学園として規範意識の向上を目指す。</p> <p>1-4 学園として人権尊重教育推進校（六中）に協力し、児童・生徒、保護者、地域の方々と共に、学びを進めていく。</p> <p>2 地域・家庭・学校が協働して、情報モラル教育を推進する。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>1-1 いじめアンケートや児童・生徒との会話、生活のスタンダード、日々の指導を通して、いじめを早期に発見・防止することができている。また、スクールカウンセラーや保健室の活用により、悩みや問題に適切に対応している。</p> <p>1-2 あいさつ運動期間を中心に日々の活動を通して、大人から積極的にあいさつを行うことで、児童・生徒の自覚の向上を促している。</p> <p>1-3 児童・生徒が時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣を身に付けている。また、相手に応じた言葉遣いの意識を高くもっている。</p> <p>2 最新の携帯・スマホ、タブレット端末、PCの現状を学び、デジタル・シティズンシップや情報リテラシーの向上に努めることができている。</p>	<p>1-1 いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固のものとし、指導の充実と取り組みの向上を進めていく。</p> <p>1-2 あいさつに関して保護者の肯定的評価も向上している。学校では、大人が積極的に挨拶することで、児童・生徒の意識向上を図っている。家庭や地域でのあいさつのあり方もより協力して行う必要がある。</p> <p>1-3 学園スタンダードとリンクさせた意識が低調である。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードを共通のツールとした積極的な活用をしていく。</p> <p>2 活用法の共有が進んできた。ツールとしてより有効に活用できるよう、苦手意識を捨て、児童・生徒と同等以上のスキルを追求していく。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1 体力の向上 2 地域貢献する力の育成 3 健康にかかわる食育の実践	
取組	1 義務教育9年間を見通した体力づくりの取組を実施する。特にコロナ禍で低下した児童・生徒の体力回復、向上のため、基本的な生活習慣の見直しや確立、体育、保健体育の授業、休み時間や放課後の時間、部活動等の計画的な実践を進めていく。 2 地域行事への参加やボランティア活動を通して、児童・生徒の心と体の健康づくりを推進する。 3 栄養士の協力や、家庭科の授業等を通じて、健康に関わる食育を進めていく。	
	成果	課題と改善方策
	1 (1) コロナの影響で、中学校教員が小学校高学年の体育の授業での指導がほとんどできなかった。専門的な技能の習得とともに、運動に親しみ体力の向上に繋げる意味でも継続的に進めるようにしていきたい。 (2) 体力テストの結果から、学校の課題を集約し、健康教育委員会が中心となり、学園の課題を把握した。さらに、課題改善に向けての方策を検討し、実践に繋げていきたい。 2 コロナの影響で、地域行事への参加やボランティア(地域行事・小学校行事)活動が限られてしまった。行われた行事には例年よりも多くの児童・生徒や保護者が参加した。多くの人のために奉仕し感謝されること等で、自己有用感をもたせたり、小学校では地域行事への参加を奨励したり、地域の一員としての意識を高めていきたい。	1 義務教育9年間を見通した一貫した体力向上の取組をさらに充実させていく必要がある。運動の日常化や体力調査の分析から各校の実践まで情報を共有し、より効果的な実践に繋げていく。 特に柔軟性や投げる力に課題があり、体育の授業や体育的な活動において、課題改善のための継続的な取組を学園として推進していく。また、相互乗り入れ授業を効果的に活用し、教師の指導力を高めるとともに、教員間の情報共有をさらに進める。 2 児童・生徒の地域の一員としての意識を高め、ボランティアを通して自己有用感を高めることを、継続していくことが大切である。地域行事への参加、ボランティアの参加をさらに奨励して、地域の中で人間力・社会力を高めていく。

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)	
目標	1 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 2 オリンピック・パラリンピック教育等	
取組	1 学区だけでなく、三鷹市を見据えた地域学習を実践し、未来を見越したキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進していく。 2 体力面だけでなく、世界の文化や歴史などの学習を進め、オリンピック・パラリンピックを通して、平和教育や、人権尊重教育に繋げ、学習を進めていく。	
	成果	課題と改善方策
	1 学区だけでなく、三鷹市の未来を見据えた地域学習の実践に取り組み始めることができた。具体的には地域防災、地産地消、人権尊重教育、伝統行事等を学習の中に取り入れることができてきている。また、CSを含む地域や市の職員、警察や消防等々から直接指導を受けたり、発表時に立ち会ってもらい公表していただいたりしていくこともできている。 2 東京オリンピックの年に、体力面だけでなく、世界の文化や歴史などの学習を進め、オリンピック・パラリンピックを通して、平和教育や、人権尊重教育に繋げ、学習を進めることができた。	1 コロナ不安もあるが、学園として地域の方々と一緒にとなって、さらに三鷹市の学習に深く取り組み、多くの方々と児童・生徒との交流を推し進め、さらに地域の方々や関係諸機関の方々の力を借りて、キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進していきたい。 2 オリンピック・パラリンピックレガシー教育を計画的に学園として取り組んでいきたい。体力面の向上はもとより、次年度も人権尊重教育に絡めて平和教育や互いを認め合うことに力を入れて取り組んでいきたい。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1 教職員のライフ・ワークバランスの推進 2 地域行事等への参加	
取組	1 校務改善や教職員の意識改革を図りながら、3校の実態に応じた働き方改革を推進する。SSSや教育ボランティア、部活動指導員等を効果的に活用し、教職員が児童・生徒と向き合える時間を確保する。 2 地域との関わりを積極的に推進し、児童・生徒だけではなく、大人も参加できる雰囲気づくり等を工夫していく。	
	成果	課題と改善方策
	1 各校の主な取組 ・ 定時退勤日の設定 ・ 1日30分の実質の勤務時間減の努力 ・ 部活動顧問の複数配置と定期試験週間の休暇促進 ・ 長期休業中の休暇取得促進 ・ 毎月の教職員一人ひとりの超過勤務時間の確認 ・ 個別に教職員の状況確認 ・ 年次休暇の消化促進 少しずつではあるが教職員の在校時間は減ってきている。教職員が仕事を効率的に行い、ライフ・ワークバランスを推進しようとする意識は高くなっている。 2 地域行事は延期や中止が続いている。	1 各校で工夫した取組を実施し、効果は出ているが時間外に仕事することが多い現状は続いている。各校の取組や成果を共有し、さらに校務改善を推進する。また教職員一人ひとりのライフ・ワークバランスの意識をさらに高めていく。 2 地域行事は無くすことなく、次年度以降継続して行うことができるように規模の縮小等も含めて検討していく。

令和3年度 東三鷹学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>○学園合同研究会では、テーマに沿って各校で実践して、成果を共有することができた。感染対策の中でもタブレット端末やPC等を活用して情報交換しながら、学園全体で授業改善していく姿勢ももてた。</p> <p>○学園カレンダー第2号をCS委員会が中心に作成することができた。作成していく過程で、各校や諸団体、市や杏林大学等との連携を強めることができた。</p> <p>○いじめ調査やQ-U調査、生活スタンダード、日々の指導や児童・生徒との会話を通して、いじめの早期発見・防止することができている。また、きまりを守ることや相手に応じた言葉遣いの意識が高まっている。</p> <p>○人権尊重教育推進の継続。</p> <p>○CS委員と学園の児童・生徒、教職員との熟議。</p>
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>○小・中のつながりを意識した、さらに充実した学園研究の実施していく。また、1人1台タブレット端末を学習のツールとして、有効に活用する研究を深めていく。</p> <p>○CS委員会と協働で、学園スタンダード（キャリア・パスポート）の児童・生徒及び保護者の理解を深め、より効果的に活用できるようにする。</p> <p>○感染症拡大のために予定された児童・生徒の交流活動を実施できないものもあった。実施方法等を創意工夫していく。</p> <p>○学園3校のサポート隊事務局の連携を強化し、サポート活動の充実を図る。</p> <p>○学園・CS委員会の活動の発信をさらに充実していく。</p> <p>○熟議の方法（リモート等の利用）や、開催の日程調整。</p>
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<p>○学園合同研究会は、テーマに沿って授業研究を中心に実施するとともに、タブレット端末を活用した実践の交流を行う。また、学園版カリキュラムの実証を行い、地域人財を活用した授業実践を行う。</p> <p>○学園スタンダードについて、活用方法について教職員の共通理解を図るとともに、保護者会や熟議を保護者の理解を深める機会にする。</p> <p>○乗り入れ授業をより効果的な方法で実施する。交流活動は実施可能になるように工夫していく。</p> <p>○学園3校のサポート隊が合同で、ボランティア募集システムを導入して、活動の充実を図る。</p> <p>○CSだより、学園だよりで活動を発信する。特に学園ホームページを充実していく。</p> <p>○コロナ対策を進めながら、CS委員と教職員、保護者、児童・生徒とのそれぞれの熟議を計画、実施する。</p>

おおさわ学園



おおさわ学園

令和3年度 おおさわ学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	コミュニティ・スクール委員会及びスクール・コミュニティ推進員と協働し、地域の教育資源や地域人財を教育活動に効果的・計画的に活用する。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・SC推進委員とともに地域の方とお話とふれあいの会を実施し、情報交換しながら人財の掘り起こしを行う。 ・「学校3部制」の理解を深め、スクール・コミュニティの構築につなげる。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関連のサポートや感染症対策も含めて安全に配慮しながら実績を増やしている。12月には学園3校長で国立天文台との連携推進の話し合いの場をもった。 ・学園研究で洗い出した学習活動をCS熟議で改めて確認し、人財の更新と掘り起こしを進めた。 ・学園研究のテーマでもあり、意識をもって計画実施し、各教科の実践報告を出すことができた 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動等に対する地域人財等活用目標の達成度は、上昇したがまだ十分とは言えない。リモート等を活用した取組もさらに増やしたい。 ・地域人財・施設の具体的な活用事例が少なく不十分である。 ・タブレット端末活用のため教員のスキルアップが必要である。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人財・施設の活用・方法について学園研究として実践事例を蓄積しながらCSとともに見直しを行う。 ・CS委員・教職員・子どもたちで天文台との連携・協力や学校3部制について熟議を実施する。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	小・小、小・中の交流活動、地域行事への参加・協力、地域との交流活動、ボランティア活動での交流等を進める。	
取組	教職員の結束力や児童・生徒の課題解決に向けて、学園研究でライオンズクエストを実施する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究として取り組んだライオンズクエストプログラムのワークショップ研修（3回）を通して、児童・生徒の意識に沿った指導法を学ぶとともに、3校の教員同士が互いのよさに触れる絶好の交流の場にもなった。 ・教員研修では、一人一人が、多くの「ライフスキル」の指導資料を取得できた。活用につなげた。 ・コロナ禍においてもタブレット端末を活用し、七中音楽祭動画配信や部活動紹介ビデオを使って3校の交流を進めることができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園カリキュラムへの位置付けがまだ不十分である。有効な実践事例が少ない。 ・一人一人の児童・生徒の実態をより明確化し、個別最適化な学びの実現に取り組む。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおさわ学園カリキュラム」をよりよいものにするため、CS委員会とも連携しながら、地域人財や施設を教員自身が訪問したり、体験したりする。 ・コーディネーター会が中心となり、学園教職員で熟議を開催し、「思いの共有」を図る。 ・児童・生徒が「個別最適な学び」を実現できるよう1人1台の学習用タブレット端末をはじめとするICTの活用と協働的な学びを組み合わせながら実践を深めていく。

証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」を活用し計画的・継続的・系統的に指導を行い、特に読み解く力や書き表す力をつける。 ・タブレット端末型パソコンを活用し、一人ひとりの理解状況や能力・適正に合わせた個別最適化された学びを保証する。 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・おおさわ学園カリキュラムの各教科・領域に地域人財や施設を位置づけた実践例を作り活用する。 ・タブレット端末型パソコンの活用例を学園で共有しながら、9年間の学園のICT教育のカリキュラムに位置付ける。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究の教科分科会ごとに、地域の教育資源を活用した実践を積み重ねて、おおさわ学園カリキュラムに位置付けている。 ・新たに実施したライオンズクエストプログラムのワークショップ研修を通して、児童・生徒の意識に沿った指導法等について、課題意識をもって小・中の教員が共に学ぶことができ、日々の実践に生かしている。 ・学習用タブレット端末等を活用し、試行錯誤を繰り返しながら、児童・生徒個々に最適な学びや探究的・協働的な学びを取り入れた授業の改善に取り組んでいる。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる制限により、3校それぞれのよき実践を十分に共有することができず、十分な成果を上げることが難しかった。 ・教員間のICTスキルの差が大きく、学習用タブレット端末等が十分に活用されていない事例も少なからず見受けられる。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園研究等においても、リモート会議等のよりよいシステムを積極的に推進し、全員の参加意識を高めていく。 ・学習用タブレット端末等を活用して成果を上げた実践事例を学園の教員間で共有しながら、系統立てたICT教育のカリキュラムを構築していく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源およびサポート隊を活用および児童・生徒の多様な交流を通し「人間力」「社会力」を育む。 ・教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、豊かな情操を育み、情緒の安定を図る。 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度のおおさわスクール・コミュニティカレンダーを活用して、交流活動や地域行事への参加を呼び掛ける。 ・教育支援研修で児童・生徒の見方や対応の仕方を研修したり、6年生の中学への引継ぎを丁寧に行ったりし、いじめ根絶を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルスの感染防止のための措置により、地域社会との交流が制限されたが、感染症対策を行いながらのボランティア活動（ほたるの里、小学校運動会）等を工夫し行うことができた。各校が児童生徒の豊かな人間性の育成を目指し、様々な取組を実施することができた。 ・小・中の交流活動については、直接の交流はほとんどできなかったが、動画を活用して「七中音楽祭」「部活動紹介」を配信することができた。 ・地域資源、人財を活用し、災害について調べ、その成果を地域の防災訓練で発表し高い評価を得た。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい感染状況にあっても学園や地域での交流深めるために、策を講じて工夫を重ね、新しいスタイルを生み出す努力をしながら、豊かな人間性を育む必要がある。 ・友達に対して心ない言葉で傷つけたり、独りよがりになり他者との関わりを避けようとしたりする状況が見られる。 <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会と協働し、児童・生徒・教員・CS委員による「天文台サミット（仮称）」を開催し、地域とのかかわりや教育資源の活用について考えるきっかけを作る。 ・配布した「スクール・コミュニティカレンダー」をもとに中学生は地域のボランティア活動、小学生は地域行事への参加を呼びかける。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	生涯にわたり健康な自立した生活を送るための基盤となる基本的な生活習慣の定着や心身の健康・体力の向上を図る。	
取組	運動能力や生活習慣調査の結果を学園として分析し、保健体育や体育科の学園カリキュラムに系統性を考慮しながら位置づける。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では持久走記録会、中学校ではマラソン大会を継続していることもあり、新型コロナウイルス感染症のため体力低下といわれる中でも、体力テストで図る体力のうち、「持久力」に関しては、比較的高い水準を保っている。 ・学習用タブレット端末を活用して、毎日の検温に加え、本日の気持ち等も入力できているため、自身の健康に関する興味・関心は、コロナ禍に入る前より確実に高まっている。 ・来年度に向けて、体力向上に関する全体計画・年間指導計画を作成することができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各校では体力テストの分析を行っていても、その他2校になかなか情報が伝わっておらず学園としての体力向上を取組が確立できていない。 ②体力向上に関する全体計画・年間指導計画が作成しただけで終わらないようにすること。 ③体力向上の要である体育科の授業を改善する。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小学校の体育主任、中学校の保健体育科の教員とで自校の体力面の課題、体力向上の取組等、検討・協議をする場を意図的に設ける。 ②計画に基づいた指導、体力向上の取組をしていくが、変更があった場合は計画を修正・追加し、その次の年度に向けてより質の高い計画に洗練させていく。 ③タブレット端末を有効活用しながら、資質・能力が確実に身に付くような体育科、保健体育科の授業を行えるように、相互授業観察（授業記録同化も活用）を実施して、助言し合えるとよい。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	感染症対策を徹底し、新しい学校生活を確立する。	
取組	感染症対策を徹底しながらできることをできるところから行う。新しい学校生活について情報交換を行いながら安全で楽しい学校生活を送れるようにする。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・3密防止に基づき、不織性マスクを着用する、ソーシャルディスタンスを順守する、窓を開放し扇風機を稼働させる、黙食を励行する等を教職員、児童・生徒に徹底させることにより、クラスターの発生を防ぐことができた。 ・三校の管理職、主幹教諭、養護教諭が相互に連絡を取り、コロナ防止の取組状況を情報交換することにより、学園が一体となってコロナ感染拡大防止に推進することができた。 <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関、トイレ、特別教室における消毒液に設置 ・職員、来客用玄関のデジタル体温検査機の設置 ・児童・生徒の対話的な授業におけるアクリル板の活用 ・職員室におけるアクリル板またはビニルシートの設置 ・兄弟姉妹、保護者の感染状況に関する情報の共有 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育や音楽、部活動等の実技教科や活動において、コロナ感染防止の徹底を図る一方で、児童・生徒の関心・意欲の低下や学習内容の習得の妨げにつながっている。 ・学校におけるコロナ感染防止は、ある程度奏功していると言えるが、学校外の活動（地域のスポーツクラブ等）や保護者、兄弟家族等を通じた感染が増加しつつある。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルディスタンスを十分確保した上での歌唱指導を行うこと、時間を区切ってきめ細かに手指の消毒を行うこと、アクリル板を効果的に活用する等の工夫により、学習意欲の向上を図り、学習内容の習得を進める。 ・保護者会、保健だより等で注意喚起を促し、感染防止の意識を啓発する。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教員のタイムマネジメント力の向上を目指す。	
取組	在校時間の自己管理、校務分掌の見直し、ICTの活用により、在校時間を減らす。メンタルヘルスのチェック体制を整備する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナをきっかけにして、ICTを積極的に活用しながら、校務分掌や行事等の見直しを推し進めたことで、明らかに業務の改善が進んでいる。 ・効率的な学校運営を意識する教員が増え、全体として在校時間の減少が見られる。その分、心の余裕が生まれ、児童・生徒や保護者に関わる問題等に対しても落ち着いて対応できるようになってきている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体として在校時間が減少している一方で、超過勤務が一部の教員に固定化されている現象も少なからず見受けられる。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備や会議等の見直し等をさらに推し進め、児童・生徒たちと向き合う時間を確保するとともに、業務に偏りがなくなかまめに検証を行って、改善を図っていく必要がある。

令和3年度 おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を万全にしながら、コロナ関連のサポート、日常の教育活動のサポートや漢検・英検・算、数検の実施等コミュニティ・スクールとしての取組が継続できた。 ・地域の貴重な教育資源である国立天文台の出前授業をすべての学校で実施するとともに学園と国立天文台連携推進の話し合いの場をもち来年度の学園研究に位置付けることができた。 ・学園研究では、「地域人財・資源発掘活用」に取り組んだ学習活動をCS熟議で改めて確認し、人財の更新と掘り起こしを進めた。 ・「ライオンズクエスト」「教育支援」「評価研修」「天文台周辺のまちづくり」等学園研究に意識をもって計画・実施し、各教科の実践報告を出すことができた。 ・新年度「おおさわコミュニティ・カレンダー」作成への取組に児童・生徒が地域住民とともに参加することができた。また今年度分は大好評だった。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる制限により、3校それぞれのよき実践を十分に共有することができず、系統性のある成果を上げることが難しかった。 ・教員間のICTスキルの差が大きく、学習用タブレット端末等が効果的に活用されていない事例も少なからず見受けられる。 ・学園カリキュラムへの位置づけがまだ不十分である。有効な実践事例が少ない。 ・一人一人の児童・生徒の実態をより明確化し、個別最適化な学びの実現に取り組む。
3 「2」の重点課題を解決するための改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究等においても、リモート会議等のよりよいシステムを積極的に推進し、学園の教員全員の参加意識をさらに高めていく。 ・学習用タブレット端末等を活用して成果を上げた実践事例を、学園の教員間で共有しながら、系統立てたICT教育のカリキュラムを構築していく。 ・「おおさわ学園カリキュラム」をよりよいものにするため、CS委員会とも連携しながら、地域人財や施設を教員自身が訪問したり、体験したりする。 ・コーディネーター会が中心となり、学園教職員で熟議を開催し、「思いの共有」を図る。 	